平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	2	都道府県・指定都市名	青森県
学校名（ふりがな）（生徒数）	青森市立浪打中学校（あおもりしりつなみうちちゅうがっこう）（２９６人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：青森県青森市合浦１丁目１１番１０号
電話番号：　０１７－７４１－６４６１
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.aomoricity.ed.jp/namiuchichu/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：特別活動
○研究のキーワード：学習の約束の徹底　言語力育成の４技能　　練り合いの場の工夫
　　小集団での話合い　異学年交流縦割り活動
○研究成果のポイント：
・学級活動では，小集団をベースにした話合い活動で一人一人が自分の考えを述べ，意見交換を行うことによって自分に自信をもち，自己への理解を深め，よりよい生き方について考えていく態度を育てることができた。
・生徒会活動や行事においては，生徒が前面に出る活動を通して自主性，実践力，コミュニケーション能力，課題解決能力を育てることができた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

豊かな人間関係を築きながら、自らの生き方について考える力を培う特別活動
～言語活動の充実を通して～

（２）研究主題設定の理由

本校の教育目標「みがき合い、学ぶ知恵を身につける生徒」に迫るべく，生徒は互いに切磋琢磨し，日々の活動に協力的に取り組んではいるが，自分に自信をもてず，自分の考えをはっきりと伝えていくという点や自主性では弱い面があることが指摘されている。そこで，本年度，特別活動分野においては，

①互いを尊重し励まし合い高め合う力
②課題を解決しよりよいものを作るために自分の思いをしっかりと伝える力
③その過程で自分の良さを生かす力
④自主的によりよい生活を求めて協力し合い行動する力
＝豊かな人間関係を築く力

①自己の適性を理解する力
②将来に向けて見通しをもち，実現に向けて努力しようとする力
③自己のよりよい生き方について考え，大切にする力
＝自らの生き方について考える力

を身に付けさせたいと考え，本主題を設定した。

（３）研究体制

研究主任をチーフとした校内研究体制の中に，特別活動指導領域部門を設置し，学年ごとに，研究チームを作っている。学年では特別活動主任のリーダーシップのもと，学級活動や生徒会活動，学校行事での指導の在り方，活動の在り方について研究推進し，相互に確認し合いながら全校の研究にしていく。

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	１学期	年間指導計画の作成　特別活動に関わる生徒の意識調査 生徒会活動や運動会（異学年交流縦割り活動）での指導法の研究 授業公開（市教委指導課訪問、見せ合い授業）
	２学期	生徒会活動や文化祭（異学年交流縦割り活動）での指導法の研究 学級活動の公開発表、研究協議 生徒アンケート，保護者アンケート，教師学校評価の実施
	３学期	研究のまとめ

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○学習習慣の定着と言語力の育成

・学習習慣の基盤となる『学習の約束』10 項目を掲げ，毎時間の授業で生徒への徹底を図る。

・各教科や領域における言語活動の４技能「話す力」「聞く力」「書く力」「読む力」を設定し，言語活動の充実を図る。

○学級活動での話合い活動の充実

・学級活動の時間で「練り合いの場」を設定し，生徒の実態に即した小集団での話合い活動の仕方を学年教師で研究し，工夫していく。

・話合いでは，生徒全員が仲間に自分の考えを伝える場を設定し、個人思考から集団思考へとつなげる活動を計画的に実施する。

○異学年交流縦割り活動を取り入れた生徒会活動や行事の実施

・日常の委員会活動のほか，運動会や文化祭，地域の清掃奉仕活動等で３年生が企画・準備を進める縦割り活動を取り入れていく。行事の計画，教師の役割分担については１，２年生を指導する立場の３年生に助言をしていく。

・今年度は年間を通して行えるように計画を立てて進めていく。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

・学級活動では，一人一人に発表の場面を設定したことで，他から学び，自分の考えをはっきり伝えながら課題を解決し，よりよいものや集団を作ろうとする姿勢がさらに力強いものになった。また，自分の将来についてしっかりと考え，実現のために努力しようとする態度が身に付いた。

・学校行事や生徒会活動では，生徒が仲間と協力して行事を成功させるためのよりよい方法を考え，活動することで，よりよい人間関係を築くことができた。事後指導で生徒が書いた感想（作文、ワークシート）には，上級生への感謝の気持ちが書かれるようになり，１，２年生は上級生を目標に活動しようとする態度が身に付いた。

・１学期に行った実態調査を２学期にも行ったところ、数値に変化が見られた。

	評価項目	１学期	２学期	
1	自分の役割を最後までやり遂げている。	3.64	4.15	↑
2	友人の気持ちを考えながら話している。	3.49	3.89	↑
3	係の仕事をするとき，何をどうやったらよいか意見を言っている。	3.09	3.30	↑
4	すすんで友だちの活動に協力している。	4.09	4.10	↑
5	集団でよりよいものをつくりあげようとしている。	3.96	3.86	↓
6	進路について夢や希望をもち，友人などと話し合うことがある。	3.62	3.47	↓

・生徒はよりよいものをつくっていきたいという意欲が高い。今後は学校行事や生徒会活動での成功体験を積み，小集団だけでなく，大きな集団の中でも自信をもって意見を述べられるようにするために手だての工夫が必要である。

（２）研究成果の意義等

・言語力の育成においては，各教科での指導を基に学級活動でも話合い活動を進めることで，話しやすい雰囲気ができ，生徒の意欲的な活動につながった。

・青森市中学校教育研究会の領域別研究集会で授業発表を行い，研究協議で意見交換を行ったことで取組の成果と課題が明らかになった。その内容を「研究のまとめ」として各校に配布することで，校内だけでなく市内各校にも研究内容や指導の方法について広く発信することができると考える。

（３）指定期間終了後の取組

・学級活動での話合いの場を増やすために年間指導計画の見直しを行う。小集団での活動だけでなく，生徒が課題を設定し，生徒の手で進行していく学級活動や生徒会活動を多く取り入れていく。

・それぞれの学年の発達段階に応じて，身に付いた力がさらに高いものになるよう，指導法の工夫，改善をしていく。また，評価方法について職員間で共通理解を図っていく。

・何らかの形で授業公開を継続していき，広く意見を求めながら研究を重ねていく。